

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：防災費 目：消防指導費

事業名 救急指導医講習費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 消防課 消防係 電話番号：058-272-1111(内2882)

E-mail : c11193@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費

74 千円 (前年度予算額：

74 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	74	0	0	0	0	0	0	0	74
要求額	74	0	0	0	0	0	0	0	74
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

救急業務のさらなる高度化を図るために、医師に代わって救急救命士を含む救急隊員が傷病者の観察を行い、観察結果を聞いた医師の指示に従って、救急隊員が応急処置を行う「オンラインメディカルコントロール体制」の充実・強化が重要となっている。

オンラインメディカルコントロール体制のもと、救急救命士を含む救急隊員に必要な指示を与える医師には、救急隊員からの電話連絡によって伝えられる傷病者の観察結果及び傷病者が発生した現場の状況等の情報から傷病の重症度、処置の緊急度を即座に判断し、法律の範囲内で救急隊員に認められた処置方法を迅速かつ適切に指示する能力が必要となる。

(2) 事業内容

救急医療に従事する医師にメディカルコントロールに関する知識と技能を修得してもらうことを目的とした講習会を開催する。

- ・受講対象：救急搬送を受け入れる医療機関の医師
- ・講習内容：岐阜県救急隊（消防隊）活動プロトコールの理解、活動プロトコールに沿った救急隊への指示、指導及び助言の内容、事後検証方法等
- ・講師：救急専門医

(3) 県負担・補助率の考え方

県民の救命率向上のため、メディカルコントロール下で常時指示体制、事後検証体制、再教育体制、リスク管理体制の構築を前提に、救急救命士の処置範囲が順次拡大されており、県がその協議会運営の費用を負担する必要がある。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	30	講師(医師)報償費 @6,000×5人
需用費	14	
消耗品費	8	資料作成費 @8,000
会議費	6	会議用弁当(お茶含む)@1,150×5
役務費	8	通信運搬費 @8,000
使用料	22	大学会場使用料 @22,000
合計	74	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

愛知県において、救急業務高度化推進事業実施要領に基づき、救急救命士に対する特定行為の指示、救急活動の検証、病院実習時の指導等を円滑に実施するため、指導医講習会を平成14年から実施している。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

救急現場から医療機関に傷病者が搬送されるまでの間において、医学的観点から救急救命士を含む救急隊員が行う応急処置などの質を保証するためには、応急措置の常時指示体制、事後検証体制、教育体制の充実を図ることが必要である。

指導医講習会により、オンラインメディカルコントロールにおける指示内容の均質化を図り、メディカルコントロール体制の充実強化を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R7年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

事業目標について限定的な指標の設定は困難である。

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	令和4年12月17日に研修会を開催し医師12人が参加 メディカルコントロール体制、プロトコール、救急救命士が実施する救命処置、事後検証要領等に関する座学をオンラインで実施した。					
	指標① 目標：_____ 実績：_____ % 達成率：_____ %					
	指標② 目標：_____ 実績：_____ % 達成率：_____ %					
令和 5 年 度	令和5年12月17日に研修会を開催し医師23人が参加 メディカルコントロール体制、プロトコール、救急救命士が実施する救命処置、事後検証要領等に関する座学をオンラインで実施した。					
	指標① 目標：_____ 実績：_____ % 達成率：_____ %					
	指標② 目標：_____ 実績：_____ % 達成率：_____ %					
令和 6 年 度	令和6年12月14日に研修会を開催し医師10人が参加 メディカルコントロール体制、プロトコール、救急救命士が実施する救命処置、事後検証要領等に関する座学をオンラインで実施した。					
	指標① 目標：_____ 実績：_____ % 達成率：_____ %					
	指標② 目標：_____ 実績：_____ % 達成率：_____ %					

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	救命率の向上には、救急救命士からの指示要請や救急隊員からの指導・助言要請に対し、岐阜県救急隊（消防隊）活動プロトコールを理解した医師の養成を行う必要がある。 また、救急活動の質を維持・向上させていくためには、個々の救急活動を検証し、その結果を救急隊にフィードバックすることが必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	救急隊への助言、指示及び救急活動の事後検証は、医学的観点から、統一した基準で客観的になされることが重要である。 このため、県内の救急搬送を受け入れる医療機関に勤務する医師を対象として、統一的に教育を実施することは、岐阜県のメディカルコントロールの質の均質化と全体の底上げに有効な手段である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	岐阜大学医学部附属病院の救急専門医を中心に講師を依頼し、岐阜大学医学部棟を講習会場とすることで、充実した内容の講習会を効率的に開催している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

病院救護前体制のより一層の充実強化を図るために、救急現場の救急隊に対して、迅速かつ適切な指示をすることができる、メディカルコントロールに精通した医師の確保が欠かせない。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように引き続き、指導医講習会を開催し、メディカルコントロールに精通した医師を養成していく。